

2012年ABAC第1回香港会議ニュースリリース【仮訳】

**熱意を現実に：APEC地域のビジネス界のリーダー達は、アジア太平洋自由貿易圏を構築するためのイニシアティブに可能な限り政府が関与することを要請する。**

アジア太平洋の首脳は、世界経済の挑戦に対する保護主義的反応を防ぎ、開かれた貿易投資を目指したイニシアティブを実行すべきである。

2012年2月25日

中国香港

アジア太平洋のビジネス界のリーダー達はAPEC首脳に対し、優先して以下のことを行うよう求めた。即ち、地域経済統合を加速し、より強靱なインフラ及びサプライチェーンを構築し、食料安保を強固にし、革新的成長を促すことである。アジア太平洋経済の統合というゴールを実現するためにAPECはロシアを議長国として今年の活動を開始した。

21エコノミーを代表するビジネス界のリーダー達は2月21－24日香港で開催された本年第一回目のABAC会議に出席し、9月ウラジオストックでAPEC首脳に提出する提言作成の工程に入った。

「今年我々が取組む優先課題は各エコノミー（APEC参加国・地域）を経済的に近づけることである。その方法は、物・サービス・投資の自由な流れを阻むまだ残存する障壁を除去し、APEC全体で経済成長し続けることへの総意を形成することだ」とABAC（APECビジネス諮問委員会）議長に新しく就任したロシアのマゴメドフ氏は語った。

上記を考慮に入れ、ABACは「熱意を現実に」というテーマの下、2012年の作業計画を策定した。今年は、FTAAP（アジア太平洋自由貿易圏）への究極的道筋である、貿易・投資の自由化・円滑化に焦点を当てており、新しいアジェンダとしてサービス分野を加え、エネルギー安全保障と食料安全保障を強化し、確実なサプライチェーンを構築し、さらに技術の普及や金融機能をも通じて革新的成長を促進させることをテーマにした。サプライチェーンについては、昨年ABACが委託した調査報告で、資金と時間の観点からの障害点を指摘しており、この障害の影響を緩和する提案を行っている。FTAAPに関しては、FTAAPにつながる可能性のあるいくつかの道筋としての協定が継続的に検討されており、APEC参加国・地域におけるそうしたイニシアティブに出来る限り積極的に参加することをABACは求める。

「中小企業の育成は、引き続き我々の作業計画の主要な構成要素となる。そして強力な金融市場は地域の成長の可能性を下支えすることから、我々はAPEC財務大臣への提言も準備

している。その提言には、金融市場の安定や統合、中小零細企業への資金調達機会の向上、G20における現行の金融システムの再構築についても述べている」とマゴメドフ氏は続けた。

また、ABACは香港会議の際に、ビジネス界の関心が反映されるようなAPECの課題構築への協力強化の一環として、APEC-SOM（高級実務者）との対話も行った。APECにおけるPPFS（食料安全保障に関する官民政策協力）が設立され、今年ロシア、カザンで第1回会議が開催される。ABACは、食料安全保障政策の構築にビジネス界の意見を反映する組織を作ることを数年前に提言しており、これはABACのAPECへの関与が大幅に前進したことを示している。

以上